

令和 8 年 7 月 10 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

札幌市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
市立札幌開成中等教育学校	札幌市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表URL
市立札幌開成 中等教育学校	https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/10,8081,c,html/8081/20220204-122005.pdf

※必要に応じて行を追加してください。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表URL	学校関係者評価結果の公表URL
市立札幌開成 中等教育学校	https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/10,3854,c,html/8240/20260708-125721.pdf	同左

※必要に応じて行を追加してください。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

(当てはまるものに○をしてください)

- ☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載するようお願いします。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

(当てはまるものに○をしてください)

- ☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

特になし

4. 実施の効果及び課題

※以下の（１）（２）について、それぞれ取組の成果・効果及び課題を記載してください。

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

2011年に決定された「札幌市中高一貫教育校設置基本構想」に示された「6年間の連続した学びを生かして、札幌で学んだというアイデンティティを持ちながら、将来の札幌や日本を支え国際社会で活躍する知・徳・体のバランスのとれた「自立した札幌人」を育成する。」の理念のもと開校した本校は、そのスクール・ミッションとして「6年間の連続した国際バカロレア（IB）の教育プログラムの活用による課題探究的な学習を生かして主体性を育み、国際的な視野で将来の日本を支え、活躍できる人材を育成する学びの場」を掲げており、本校の学校教育目標の実現に向けた教育課程の編成及び実施において本取組の活用は必須のものとなっている。

本校においては、特別の教育課程の編成・実施により、教育課程内における様々な探究活動に生徒が積極的に取り組み、その研究成果を発表し、国内外から高く評価されていることや、「トビタテ！留学JAPAN」等の留学支援及び促進事業を活用し海外での多様な実践活動に自ら参加する生徒の増加等、自然科学のみならず人文・社会科学に関する課題探究的な学習の機会の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、理数英の専門学科「コズモサイエンス科」の特性を生かして、広い意味でのサイエンスに関する教養と論理的な思考力を育成し、コミュニケーションツールとしての英語力を育成することに大きな効果があると考えます。

しかしながら、教員による生徒一人一人に対する個に応じた指導や支援及び「指導と評価の一体化」に向けた「フィードバック」の時間が圧倒的に多くなることから、「働き方改革」に向けた積極的な業務見直しや調整が必要である。また昨年度よりMYP全生徒に対して全校的に本格実施を始めた学際的な単元（IDU）の開発と授業実践については、MYPを実施しているIB校としては必須の取組であり、より効果的で生徒自身が課題探究的な学習を実践できるよう、全教員による研究の継続が必要である。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

特別の教育課程の実施による中等教育学校における6年間を通した学びの連続性を生かし、学習活動や特別活動における幅広い異年齢集団による学び合いや交流・協働を通じて、多様な価値観を認め合う機会を充実させていくことにより、生徒は自分の考えを深め新たな考え方に気付いたり、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考え、課題解決に向けて試行錯誤しながら行動することができるようになる等「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」につながっている。また卒業後の進路選択においても、自分の興味関心に基づき「社会において果たさなければならない使命」について考えるとともに、「専門的な知識、技術及び技能を習得」することによって更に自己の向上をさせようと、見通しをもった学習計画を立てて取り組む等、自立した学習者として十分に成長を遂げていると思われる。

一方、自分の意見を言わなくなったり相手に譲ることが増え、自分の意見を伝えきれないと感じている生徒や、自らの課題探究活動や成果に自信が持てない生徒が一定数見られることから、自己肯定感の醸成に向けたより一層の取組が必要である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

※記載した課題について、特例の取組等に関する改善策の方向性を記載してください。

特別の教育課程の編成・実施について、学校長より令和8年度における学校経営テーマとして「学習者が「する」課題探究的な学習の理念の実践と定着を目指す」「互いに認め合いながら協働できる安全安心な環境づくりを徹底する」ことの2点が示されている。

課題探究的な学習の推進に向けては、全教職員が単元計画「Unit Planner」の見直しと改善及び適切な評価方法を研究するとともに、探究を通じた協働学習における「指導のアプローチ」(ATT)を意識した授業改善と、学習において重視する「学習のアプローチ」(ATL)の学習スキルを言語化し、生徒自身が課題探究的な学習を実践できるよう支援することとした。また国際バカロレアのプログラムにおける「奉仕と行動 SA(service as action)」「創造性・活動・奉仕CAS (Creativity, Activity, Service)」を通じて、校内や地域における課題を発見し、その解決と改善に向けて生徒が自ら企画運営する奉仕活動によって、自らの責任感や社会貢献の意識を高めるとともに、総合的な探究の時間「コスモサイエンス」において、地域や社会とのつながりを考える「ほんもの」を体験することにより、そこから発見した課題に対する自分たちの提案を地域に発信する力を育成する。

また、令和8年度札幌市学校教育目標である「子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり」を実現するため、生徒の実態把握と個別化・差異化を意識した授業づくりと、生徒の自己肯定感を高めるための評価方法や方策を考える全体研修を実施するとともに、生徒ならびに教員が互いに認め合いながら協働できる安全安心な教育環境および職場環境づくりを目指し、授業時数を適切に確保しつつ、学校行事の精選と余裕のある業務スケジュールを両立させた年間計画の立案に取り組んでいる。